

## 女子部

### 女性研究者の苗字のあれこれ

国立情報学研究所 坊農 真弓

私は2007年4月に結婚しました。少なくとも左手薬指にはまっている指輪の裏の刻印はそう主張しております。しかしながら、法的には2010年9月に婚姻が認められました。いえいえ、決してそんなややこしい話ではありません。単純に「坊農」という珍しい苗字が気に入っていたので、変えたくなかったのです。そんな私自身のわがままから、第1子を出産する2010年11月直前に婚姻届けを提出しました。それまでの2年と5カ月、いわゆる「事実婚」をしておりました。

私は「夫婦別姓の制度成立を！」を主張しているわけではありません。いろいろな人にすぐに覚えてもらえるので、単純に「坊農」が気に入っていたのです。残念なことに夫の苗字は本当に普通で、おそらく検索しても埋もれてしまうことが容易に想像できました。また結婚前に旧姓で書いた論文がいくつかありました。苗字を変えてしまって、それらと一致がとれないのも残念だなと思いました。夫婦別姓制度を待っている人の多くは、入籍をしない「事実婚」という形式を取ります。いろいろ大変とは聞かれますが、物は試しだし一度やってみようという軽い気持ちでした。

実際やってみて分かったのは、「子どもさえいなければそんなに大変ではない」ということ。親戚や家族に理解してもらうことは大切ですが、それ以外はあまり問題がありませんでした。年末調整などで配偶者を聞かれる際には「有」ってマルしているんだろうか？ と一瞬悩んだりしましたが、迷わずマル。

しかし、出産が間近に迫った2010年夏、「子どもを持つ上で事実婚って何が大変なんだろう？」といろいろと調べてみると、あれよあれよと大変そうなトピックを発見。財産のこととか、保育園の手続きとか、入籍していないと損だと思わせる制度が山積みでした。これって入籍させるための罠？と思うほど。夫婦二人で話し合い、出産前の私の誕生日に入籍。大きなおなかで婚姻届を出しに区役所へ。

その後は、職場の「旧姓使用制度」を利用して、「坊農」を維持しています。雇用契約書は本姓なのか、どこまで旧姓を使

えるのかなど、いろいろと聞かないといけないタイミングはありますが、あまり不便を感じることはありません。しかし、今年度に入って立て続けに2件、不便を感じるがありました。

1つ目は、国際会議に参加する準備をしていたとき。学会割引でホテルを予約できるとあって、本姓のクレジットカードと学会に参加登録している旧姓でホテルに申し込んだら、見事にアウト。クレジットカード名義人と学会参加者リストの人物が同一人物であることを証明する追加書類を出すようにと連絡が。(むむむ、じゃあ今度からはミドルネームに本姓を入れて学会参加登録しようかな?)

2つ目は、出張先のイギリスのヒースロー空港で自動チェックインをしようとしていたとき。私のパスポートは入籍寸前に「坊農」で更新した10年用。結婚して苗字が変わった旨は日本独自のやり方で1ページ目に印字されています(本姓と旧姓併記)。新しくパスポートを取り直すよりも安かったという理由でこの日本独自の方法を選んだのですが、パスポートの中のチップには本姓の情報はなく、「坊農」しか入っていません。よって、本姓で買った航空券とパスポートの苗字が一致しないので自動チェックインはできないとのこと(むむむ、ケチったのがまずかったか。もったいないけど新しい本姓のパスポートを旧姓併記で取得し直そうかな?)

とまあ、図らずもこんな感じでちょこちょこ戦っております。おこがましいかもしれませんが、私が社会に提案したいのはこんな内容。女性の社会進出が目覚ましい昨今、夫婦別姓制度の成立はもはやあまり緊急性を帯びていません。むしろそれより『旧姓使用証明書』なるものをどこかの公的機関に発行していただき、それを使えば旧姓で新しく銀行口座も開設できるし、パスポートも申請できるし、クレジットカードも作れるという世の中、なんていかがでしょう？ 女性研究者のみならず、結婚で苗字が変わることに悩んでいる性別問わない国民が楽になるかもしれません……。と思うのは私だけでしょうか？

## 理系女子を増やすためには？

最近なにかと話題の理系女子。「理系女子をいかに増やすか」というテーマはさまざまなメディアやイベント、学会等で議論されています。編集委員会の中でも女性会員を増やすためにはどうしたらよいか？と議論されたりしています。

先日アメリカ商工会議所が主催した Women in Business Summit というイベントに出席しました。その中の分科会に「STEM (Science, Technology, Engineering and Mathematics) 分野の女性」というタイトルのセッションがあり、参加し話を聞きました。宇宙飛行士の山崎直子さんなど4人の研究者が、どのようにSTEM 分野の女性を増やすのか、またキャリアパスなどについてパネルディスカッションされました。その議論の中で印象に残ったのは、親、特に母親の考え方が子ども(女の子)の将来の職業に大きく影響を与えているのではないかと、そして幼少期の環境やおもちゃの与え方が、子どもが何に興味関心を持つかに影響を与えているということでした。女の子、女性だからこうあるべきだと教えこまれがちだとのこと。こういった幼少期からの決めつけが、学科選択や職業選択のときにも影響するの

株式会社シンクフェーズ 辻田 眸

ではないかと議論されていました。私自身も2歳の女の子の母親なので、ママ友と子どものことで話をすることが多いのですが、確かに周りでは「女の子だから～をさせる」とか「男の子だったら～だけ、女の子だからね」といった会話をよく耳にすることが多いです。

また、赤ちゃんのときから男の子のおもちゃ・女の子のおもちゃと区別されていたり、男の子はプラモデルの組立て、女の子はおままごとやお人形遊びなどと決めつけることにより、興味を持つことが変わったりするのではないかという意見がありました。

「理系女子をいかに増やすか」というテーマは簡単な問題ではないと思いますが、私自身も自分の子どもには女の子だからこうしなさいなどと決めつけず、さまざまな分野に興味を持てるような環境づくりを心掛け子育てしていきたいと思っています。

また多くの女子学生や女性が情報処理の分野に興味を持ち、この分野を盛り立てていけるよう活動していきたいと思っています。

### 書評・会議レポート募集のお知らせ

情報処理学会会誌編集委員会では、会誌「情報処理」に掲載する書評、および会議レポートを広く会員の皆さまから募集しています。

1. 募集対象 次の2種類の記事について、原稿を募集します。

- a) 書評 : 過去2年間に出版された、本学会員にとって有益な図書についての紹介もしくは批評。
- b) 会議レポート : 情報処理に関する国際規模の会議・大会の報告など、時事性が高く、本学会員に広く知らせる価値のある話題。

2. 応募資格

原則として本学会員に限ります。

3. 応募の手続き

- 1) 表題 : 書評の場合は、著者名、書名、ページ数、発行所、発行年、価格、ISBN を書く。  
会議レポートは、見出しを書く。書評、会議レポートの別を左肩に書く。
- 2) 評者名 (会議レポートの場合は筆署名)・所属・評者連絡先 (住所、E-mail、Fax など) の記載を忘れずに。
- 3) 本文 : 書評は1,500字以内または3,000字以内 (1または2ページ)、会議レポートは2,100字前後で書く。
- 4) (必要であれば) 参考文献、付録、図、表をつける。詳しくは「原稿執筆のご案内 / 書評・会議レポート」(<http://www.ipsj.or.jp/magazine/sippitsu/shohyonews.html>) を参照してください。

4. 原稿の取扱い

投稿された原稿は会誌編集委員会で審査し、採否を決定します。採用にあたっては原稿の修正をお願いすることがあります。あらかじめご了承ください。

5. 照会／応募先 一般社団法人 情報処理学会 会誌編集部門 E-mail:editj@ipsj.or.jp

